

# 日本大学法学部がわかるマガジン

# Journal

ジャーナル vol.25

2018 October ▶ 2019 January



## 特集 大学院進学という選択

日本大学大学院法学研究科  
 日本大学大学院新聞学研究科  
 日本大学大学院法務研究科(ロースクール)



Interview  
 法学部出身  
 大学院生



Journal

25

特集

大学院進学という選択

2018 October ▶ 2019 January

## 日本大学法学部 Event Schedule

10月～2019.1月

就職指導課		教務課	学生課	エクステンションセンター	研究事務課
		庶務課	図書館事務課	大学院事務課	入学センター
10 October	10月11日(木)	会社四季報を使いたい会社の選び方ガイダンス[3年] 業界研究ガイダンス(入門編)[3年] R-CAP(自己診断テスト)[3年]★	10月4日(木)	日本大学創立記念日(休校)	
	10月9日(火)・10月18日(木)	リクナビガイダンス[3年]	10月8日(祝)	「体育の日」は平常どおり授業を実施 教 WEEKDAY CAMPUS VISIT 教	
	10月12日(金)・10月18日(木)・10月19日(金)	マイナビガイダンス[3年]	10月11日(木)～12日(金)	履修登録中止期間(後学期開講科目) 教	
	10月17日(水)～10月19日(金)	日経講座「ビジネスの基本」[3年]★	10月13日(土)	第4回法務研究科進学相談会 教	
	10月18日(木)	業界・企業・職種研究セミナー①[3年] 業界・企業・職種研究セミナー②[3年]	10月27日(土)	第41回法律討論会 教	
	10月19日(金)	自己分析・エントリーシート作成ガイダンス[3年]	10月中旬	日本学生支援機構奨学金満期(貸与終了)者向け説明会 教	
	10月25日(木)	業界・企業・職種研究セミナー③[3年] 業界・企業・職種研究セミナー④[3年] 2年生のためのエントリーシート攻略テスト(基礎編)[2年]★			
	10月26日(金)	業界研究ガイダンス((株)毎日新聞社)[全学年]			
	10月上旬～11月下旬	内定者による活動報告&相談会[3年]			
	11 November	11月8日(木)	社長が語る!ガイダンス[3年] R-CAP(自己診断テスト)フォローガイダンス[3年]	11月上旬	平成31年3月卒業及び留年に関する手続き期間 [4年生対象] 教
11月9日(金)	業界研究ガイダンス(いすゞ自動車(株))[全学年]	11月1日(木)	第39回法検準備日(休講) 教		
11月13日(火)	SPI3対策テスト(第1回)[3年]★	11月2日(金)～3日(祝)	第39回法検祭(休講) 教 行政なんでも相談 教		
11月15日(木)	エントリーシート攻略テスト[3年]★ グループワークガイダンス[3年]	11月3日(祝)	ミニオープンキャンパス 入 法学部図書館ピリオバル 教		
11月16日(金)	グループディスカッションガイダンス[3年]	11月4日(日)	第39回法検祭後片付日 教		
11月22日(木)	面接対策講座[3年]	11月11日(日)	巡回無料法律相談会(甲府市) 教		
11月30日(金)	業界研究ガイダンス(吉本興業(株))[全学年]	11月15日(木)～16日(金)	ゼミナール入室申込期間[2年生対象] 教 ※第一部・第二部ともに、11月15日(木)10:00～16日(金)19:00まで。		
11月中旬～11月下旬	SPI3対策対策講座12月コース説明会[3年]	11月17日(土)	ホームカミングデー 教		
12 December	12月6日(木)	グループディスカッションガイダンス[3年]	11月27日(火)	第5回法務研究科進学相談会 教	
12月13日(木)	グループワークガイダンス[3年]	11月28日(水)	ゼミナール入室試験(筆記)[2年生対象] 教 ※第一部10:00～10:30、第二部18:00～18:30まで。		
12月上旬	エントリーシート攻略テストのフォローガイダンス[3年] SPI3WEBテスト説明会[3年] SPI3対策講座(12月コース)[3年]★	11月28日(水)～12月4日(火)	ゼミナール入室試験(口述)[2年生対象] 教		
12月上旬～12月下旬	各種公務員業務説明会[全学年]	12月上旬	平成30年度第2回公認サークル連絡会 教 平成30年度準公認サークル・新規登録サークル連絡会 教		
12月中旬	TOEIC講演会[全学年]	12月8日(土)	定期無料法律相談会 教		
12月下旬	SPI3対策テスト(第2回)[3年]★	12月15日(土)	平成30年度 資格・検定・公務員試験褒賞制度褒賞授与式 教		
1 January	期間中随時	12月中旬	日本学生支援機構奨学金継続手続説明会 教		
	内定者による就職支援プログラム[3年] 就職指導課員による特別講座[全学年] オフィスアワー・相談ブースによる個別相談[全学年] ゲストスピーカーによるキャリア講座(正規授業のコマにて)[全学年]	12月24日(月)	振替休日は平常どおり授業を実施 教		
		12月25日(火)～26日(水)	補講期間 教		
		12月27日(木)	1年生英語一斉テスト 教		
		12月27日(木)～1月8日(火)	冬季休業 教		
		1月9日(水)	授業開始 教		
		1月14日(祝)～29日(火)	平成31年度転部(第一部、第二部間)・転科選考出願期間 入		
		1月21日(月)	ゼミナール論文提出締切日 教 ※第一部17:00まで、第二部19:00まで。 提出期限の過ぎたものは、理由の如何を問わず受理しません。		
		1月22日(火)～30日(水)	後学期末・学年末試験期間 教		

### 法学部ホームカミングデー

11月17日(土) 法学部神田三崎町キャンパス

本学部を卒業された皆さまに母校を訪問していただき、著名人の記念講演、懇親会など楽しい一日を過ごしていただけます。  
 ●参加には法学部ホームページからの事前申込みが必要です。  
 トップ > 卒業生の方へ > ホームカミングデー参加申込フォーム  
 →本館学生食堂での懇親会



Profile

おだ・つかさ●1963年、青森県生まれ。55歳。
1987年日本大学法学部法律学科卒業、1990年日本大学大学院法学研究科博士前期課程修了、
1996年ドイツのヨハネス・ゲーテンベルク(マインツ)大学にて法学博士号(Dr.jur.)取得。
1997年国際関係学部専任講師、2001年助教授、2002年法学部助教授、2006年同教授、
2018年7月法学部学部長に就任。
専門は民事訴訟法。担当授業は民事訴訟法、民事訴訟法特殊講義。

国際的な企業や機関で活躍
できる人材をより多く輩出す
るために、外国語科目だけでな
く、専門科目を外国語で授業
できるネイティブスピーカーを
採用したいと考えています。
留学に関しては、留学がし
やすいように現地の協定校を
増やしていきます。さらに、海
外でボランティアなどを行った
ら単位として認められるよう
な制度も積極的に検討してい
きます。これまでは休学する
しかなかったですからね。法学
部が一番グローバルな学部であ
ることをアピールしていければ
と思います。
また、ゼミナールの原則必修
化も考えています。専門分野
を深く学び、教員や友人との
絆は財産になりますから。
同時に文部科学省が検討
している「法曹5年一貫コース」
に合わせたカリキュラムの改定
にも着手しています。現状の
学部4年、ロースクール最短2
年で6年かかるところ、学部3
年、ロースクール2年の5年に
するということ、その立ち上

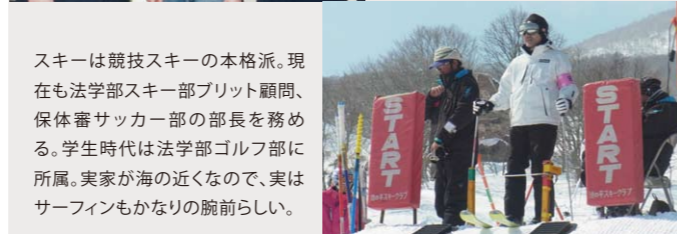
法学部に5学科あるのは本
学だけで、学ぼうと思え
ば、他学科の専門科目も履修
できます。学科を超えて幅広い
知識を修得できるのは法学部
の特長ですね。
都心で学ぶ立地の良さも魅
力のひとつです。キャンパスがな
いのが欠点ですが、ヨーロッパの

法学部の強みと魅力
学生へのメッセージ

法学部出身で司法試験
に合格する学生は毎年たくさ
んいるのです。ただ彼らは他大
学のロースクールに進学してし
まう。ですから、優秀な学生が
本学のロースクールに進学した
いと思えるシステムの構築が急
務なのです。
それには入学金免除や奨学
金だけでなく、むしろ司法試験
に合格したあと、法曹として生
計を立てていけるように、全面
的にサポートしていくことが重
要だと思っています。日本大学法曹
会とも連携して、合格後、日本
大学はこれだけの就職支援を
しますという体制を確立して
いきます。
また、大学院の法学研究科、
新聞学研究科との連携も強化



ドイツ留学時代の若き日の小田教授。当時のドイツ人の友人の実家がワイナリーで、遊びに行くうちに「ワイナリーを継がないか」と言われて真剣に迷ったそう。今でもワイン通です。



スキーは競技スキーの本格派。現在も法学部スキー部プリット顧問、保体審サッカー部の部長を務める。学生時代は法学部ゴルフ部に所属。実家が海の近くのので、実はサーフィンもかなりの腕前らしい。

大学もキャンパスが
なく、街に校舎が
点在しています。
法学部も同じで
す。ですから将来
的に新3号館を建
てる際には、ヨー
ロッパの大学にある
ようなオープンカ
フェも作って、学生
も教員も卒業生も
気軽に立ち寄れ
る、そういう校舎
になるといいなと
思います。

Contents

02 新法学部長に聞く
法学部長 小田 司 教授

04 【特集】
大学院進学という選択
日本大学大学院
法学研究科
公法学専攻 村上留理さん
私法学専攻 葛西悠生さん
政治学専攻 具志堅興哉さん
新聞学研究科 田雨さん
法務研究科 梅津恵里さん

08 法学部新任教員紹介2018

10 【連載】
ゼミナール突撃訪問
政治経済学科 川又祐ゼミナール
法学部授業Close-up
新聞学科 小林聡明准教授【比較ジャーナリズム史】
法学部の就職力
学生研究室 第4回 税理士科研究室

12 日本大学法学部
Event Schedule(10月~1月)

Special Interview

新法学部長に聞く

法学部長 小田 司 教授

大学院法学研究科長
大学院新聞学研究科長



『日法』ブランドを確立するために
さまざまな改革を行っていきます

本年7月より新法学部長に小田司教授が就任しました。
ドイツ留学など海外経験豊富な若き新学部長が牽引する
法学部の新たな未来とは？ 学部の基本方針、大学院との連携、
グローバル化に伴う改革など、小田先生にたっぷり伺いました。

「司法の日大」復活
大学院との連携を強化

法学部長としてまず目指す
のは、法学部を魅力ある学部、
社会の注目を集める学部にし
て、「日法(ニチホウ)」というブ
ランドを確立することです。そ
のためには必要なのが「司法の日
大」の復活です。かつての法学部
がそう呼ばれたように、司法試
験をはじめ難関試験の合格者
を数多く輩出できる学部にし
たい。まずはその改革から取り
組んでいきます。
大学院との関係で言うと、法
務研究科(ロースクール)が法学
部の所管となりましたので、法
学部との連携をさらに強化し
て、司法試験の合格者を増やし
ていきます。

実は法学部出身で司法試験
に合格する学生は毎年たくさ
んいるのです。ただ彼らは他大
学のロースクールに進学してし
まう。ですから、優秀な学生が
本学のロースクールに進学した
いと思えるシステムの構築が急
務なのです。
それには入学金免除や奨学
金だけでなく、むしろ司法試験
に合格したあと、法曹として生
計を立てていけるように、全面
的にサポートしていくことが重
要だと思っています。日本大学法曹
会とも連携して、合格後、日本
大学はこれだけの就職支援を
しますという体制を確立して
いきます。
また、大学院の法学研究科、
新聞学研究科との連携も強化

グローバル化に対応
新カリキュラムを投入

法学部のカリキュラムでは、
グローバル化に対応した新た
なカリキュラムを提供します。

大学院にはそういう可能性
があることをぜひ知っていただ
いて、卒業後の進路の選択肢の
ひとつに考えてください。
大学院にはそういう可能性
があることをぜひ知っていただ
いて、卒業後の進路の選択肢の
ひとつに考えてください。
大学院には研究者にな
りたい学生が進学するという
イメージかもしれませんが、大
企業の法務部や知的財産部な
ど、大学院で専門的に勉強した
学生が有利な職種も多いので
す。そして、大学院で博士号を
とった学生は、必ず大学に教員
として残れるような制度も確
立していきます。





法学部からの進学は入学金免除、在学中から 修了後の進路まで万全のサポート体制

# 特集 大学院進学という選択

来たるべき就職活動に向けて将来の進路を考えると、大学院への進学も選択肢のひとつとして考えてみてはいかがでしょうか。大学院修了後は研究者だけでなく、高いスキルを備えた高度専門職業人として、さらにステップアップした進路が見えてくるはず。法学部では3つの大学院との連携を深め、法学部生の入学金免除など経済的サポートから修了後の就職支援まで手厚くバックアップ。大学院に進学した法学部の先輩たちに後輩へのメッセージを聞きました。



法学研究科公法学専攻 前期課程2年  
**村上留理さん**  
日本大学法学部経営法学科卒業

指導教員は伊藤悟教授(税法)。東京都出身。学部時代も伊藤悟ゼミナールに所属。税理士科研究室では室長も務めた。大学院修了時に税理士資格取得を目指す。

## 公法学専攻

### 税理士資格取得を目指して進学しました

大学院への進学を決めた理由は？

私は法学部在学中に税理士科研究室に所属し、税理士試験5科目のうち、簿記論、財務諸表論、消費税法の3科目に合格しました。大学院では、税法に属する科目に関する研究で修士の学位を取得し、国税審議会より認定を受けた場合には、税理士試験の税法2科目免除を受けることができるため、大学院進学を選びました。

大学院での研究テーマ、研究科の雰囲気

大学院では、法人税法における非営利型法人の課税上の課題を研究しています。論文の作成は、行き詰まることもありますが、学生同士お互いに情報交換をすることで新たな視点を発見できます。研究や勉強のときは真剣に打ち込み、そのほかの交流はとても楽しく、メリハリのある学生が多いと思います。

修了後に目指すもの。学部生へのメッセージ

修了後は、税理士として中小企業や公益法人の経営を支える仕事をしたいです。また、将来的には租税教育活動や、地方で中小企業や個人事業主の税務にも携わりたいと考えています。就職活動では、将来に迷うこともあるかと思いますが、今の自分にできることを精一杯努力して、悔いのないように頑張ってください。



憲法、行政法、税法、刑法、刑事訴訟法、外国公法などを学び、国家(立法・行政・司法)、地方自治体、国際組織で活躍し得る人材を養成。税法専門の教員も多く、税理士志望者には専任教員が徹底した指導を行います(税理士試験科目免除対応)。

民法、商法、民事訴訟法、知的財産権法など幅広い分野を学び、修了後は研究者、公務員、一般企業の法律専門職に。知的財産の専門家を養成する「知的財産コース」の修了生は特許事務所や企業の知財部・法務部、行政機関などで活躍中。

政治理論、地方自治論、公共政策論、財政学などを学修。高度な専門知識を有する研究者、職業人を養成します。難関の国家公務員を目指す「公共政策コース」は、法律の知識とともに政策策定や政策法務の対応能力も身につきます。

日本大学大学院  
**法学研究科**  
進学相談・問合せ/  
法学部教務課大学院入試係(本館1階 事務局内)  
<http://nihon-u-gs.jp/law/>

## 税理士、公務員、企業の法律専門職など 高度な専門知識を持つ職業人を養成

現代の多様な社会現象を法学・政治学的に究明する法学研究科。公法学専攻、私法学専攻、政治学専攻の3専攻があり、それぞれに研究者養成を目的とする「専門研究コース」、高度な専門知識に支えられた職業人を養成する「総合研究コース」、さらに私法学専攻に「知的財産コース」、政治学専攻に「公共政策コース」を設置。学生の進路に応じたカリキュラムを展開します。

詳しいパンフレットは法学研究科HPよりダウンロードできます。



法学研究科政治学専攻 公共政策コース 前期課程2年  
**具志堅興哉さん**  
日本大学法学部法律学科卒業

指導教員は福島康仁教授(地方自治論)。沖縄県出身。学部時代も福島康仁ゼミナールに所属。サークルは卓球クラブ。就職は地元・沖縄を希望し、この夏休みも沖縄で就職活動に奔走した。

## 政治学専攻

### 学部時代には考えもしなかった進路に出会う

大学院への進学を決めた理由は？

法学部での恩師・福島先生のもとで他の研究をやってみたいという想いと、就職活動に活かせるのではという期待感の2点から進学しようと決めました。また、全国の学生で修士論文まで書いた学生は卒業論文に比べ少なく差別化が図られ、就職活動の面接などに活かせると思いました。

大学院での研究テーマ、研究科の雰囲気

学部時代の研究は「歩きスマホの事故防止」でしたが、180度違った研究をしたと思います。現在は「認知症高齢者の徘徊における行方不明者の死亡者数をなくす研究」を行っています。大学院の講義は常に、議論、議論、議論のスタイルです。ここでの経験は、就職活動の面接や集団討論に活かされていると思っています。

修了後に目指すもの。学部生へのメッセージ

将来は地元・沖縄で医療福祉に携われる仕事に就きたいと思っています。修士論文の内容が医療福祉に関するものなのですが、学部時代には考えもしなかった進路です。大学院進学は自身の成長に繋がるうえに、学部に比べて将来の進路についてじっくりと考えられるところが特徴だと思います。



法学研究科私法学専攻 前期課程2年  
**葛西悠生さん**  
日本大学法学部法律学科卒業

指導教員は大久保拓也教授(商法)。山梨県出身。学部時代は西原雄二ゼミナール、法学部テニスクラブに所属。実家が事業をやっていることから商法に興味を持ったという。

## 私法学専攻

### 法律を学ぶことの重要性を痛感した

大学院への進学を決めた理由は？

大学4年生の頃、自分の大学生活を振り返ることがあり、これまでの自分に足りないものは何かと考えた際に、「勉強に対して真摯に打ち込む姿勢」だと思いました。また、将来の目標を決めずに、単に周りに流されて就職活動をしていることに違和感を覚えていたため、大学院進学を決めました。

大学院での研究テーマ、研究科の雰囲気

大学院では商法を専門としており、「中小企業の事業承継」について研究しています。研究科の雰囲気としては、法学研究科の商法は人数が少ないため、その次第で密度の濃い研究ができると思います。やりがいとしては、授業のほとんどが少数ですので、常に集中してのぞめることです。

修了後に目指すもの。学部生へのメッセージ

私は、大学院に入った2年間で法律を学ぶことの重要性、必要性を非常に感じました。そのため将来は、法律に携わる職業とまではいかなくとも、法律を学べる機会のある職業に就きたいと考えています。学部生の皆さんも、就職活動だからといって慌てず、自分の本当にやりたい職業を見つけてほしいと思います。

## ① 著名で実務経験豊かな教授陣による授業

多くの執筆や講演を行っている著名な研究者教員をはじめ、法曹(裁判官、検察官、弁護士)として活躍する実務経験豊かな教員が数多く在籍。司法試験対策とともに、実務家に必要な分析力、思考力、バランス感覚を養います。さらに司法試験合格者である助教が学修相談や答案の添削のサポートを行います。

## ② 修了後、合格後も手厚いサポートが続く

修了後も継続して学修サポートを受けられる「研修生制度」。年間5000円の登録料で、翌年の司法試験合格に向けた学修支援(自習室の専用席の利用、各種勉強会への参加、助教による学修相談等)が受けられます。また司法試験合格後には、司法研修所入所前研修や就活セミナーなどを行います。

## ③ 日本大学法曹会の学修支援、就職支援

日本大学法曹会は、日本大学出身の法曹による校友団体です。現役の裁判官・検察官・弁護士として活躍する約600名の会員が在籍。法律実務基礎科目等の講師を務めたり、各種交流会や勉強会等を通して様々なアドバイスをしてくれます。司法試験合格後の就職に関しても、法曹会のネットワークを活用した情報収集など、親身になって支援してくれます。



法務研究科 法務専攻 既修者コース3年  
**梅津恵里**さん  
日本大学法学部法律学科卒業

静岡県出身。学部時代は小田司セミナーに所属。司法科研究室には現在も在籍している。来年6月にいよいよ司法試験に挑む!



## 難関の司法試験合格に向けて、 在学中から修了後まで手厚くサポート

日本大学は明治22年(1889)「日本法律学校」として開学以来、『司法の日大』として法曹界に多くの人材を輩出してきました。その伝統の力と巨大なネットワークが日本大学大学院法務研究科の魅力です。充実の教授陣、在学中から修了後まで続く支援体制、さらに奨学金などの経済的サポート、専用固定席がある自習室など設備も充実。法曹を志す学生を全力でサポートします。

詳しいパンフレットは法務研究科HPよりダウンロードできます。



## 医療訴訟を専門とする弁護士を目指す

大学院への進学を決めた理由は?

元々、将来弁護士になることを目標に大学に進学しました。学部生時代から司法科研究室に所属。そして勉強していく中で、法科大学院に進んで勉強し、司法試験に合格したいという思いがさらに強くなり、進学しました。日本大学大学院法務研究科を選んだのは、奨学金制度が充実していることと、在学中はもちろん、修了後の学修環境もとても整っていることが理由です。

研究科の特長、雰囲気

法務研究科では多くの著名な学者、実務家の先生から判例の正しい解釈の仕方や文章の表現方法等、大学では学べないことをたくさん学べます。また、現在も司法科研究室に所属しており、苦手な分野の試験対策等ができるため予備校に通う等の必要がなく助かっています。

修了後に目指すもの。学部生へのメッセージ

医療訴訟を専門とする弁護士になりたい。そして、被害者救済だけでなく、医療機関側の過酷な労働環境等を改善し、医療事故が起きにくい仕組みを根本から再構築することに携われる弁護士を目指します。日大は奨学金制度と学生のサポート体制が充実しているため、経済的負担を気にせず勉強に集中できます。法曹を目指す人は選択肢の一つとしてぜひ考えてほしいです。

## ① 新聞学を「法学部」を母体とする研究科で学ぶ

新聞学を学ぶ大学院の中でも、法学部を母体とするのは本研究科だけです。カリキュラムは、歴史、理論、制度の3領域を中心に、法学、政治学、社会学などの社会科学の関連領域を併せた科目から構成。法学部に付置されている利点を最大限生かせるように、社会科学を中心とした様々な学問領域からジャーナリズムにアプローチできる体制が本研究科の魅力のひとつです。

## ② 世界で活躍するジャーナリストの育成、 現役ジャーナリストのリカレント教育も

グローバルな人材も受け入れ、留学生を中心に世界で活躍するジャーナリストの育成も目指します。欧米だけでなく、東アジア諸国についても広く門戸を開いています。また、現役ジャーナリストのリカレント教育にも取り組んでおり、同級生として一緒に学ぶ彼らから多くの知見を得られる環境です。

## ③ 修了生の主な進路、就職先

研究者として大学院後期課程進学、また新聞社やテレビ局で記者として活躍する修了生も／(株)読売新聞東京本社、秋田魁新報社、日本海テレビジョン、福州晩報、CHINA TIBET ONLINE、SAMUSUNG電子、VOLVO JAPAN、三越伊勢丹、(株)電通テック、など。



新聞学研究科 前期課程1年  
**田雨**(デンウ)さん  
外国人留学生

指導教員は福田充教授。中国甘肅省出身。名前は英語で書くTIAN YU(ティアンユ)。福建省の閩南師範大学文学部卒業。達者な日本語は留学1年目とは思えないレベル。



## 法学部新聞学科を母体とする研究科 高い意識を持つジャーナリストを養成

新聞学研究科は、日本大学法学部新聞学科を母体として創設されたジャーナリズム、メディア、コミュニケーションを学ぶ研究科です。昭和22年(1947)に認可された歴史ある学科の目的を引き継ぐ本研究科は、高い意識を持つジャーナリストや研究者の育成だけでなく、新聞社の記者など現役ジャーナリストのリカレント教育にも取り組み、広く「コミュニケーションの世紀」を担う人材を養成します。

詳しいパンフレットは新聞学研究科HPよりダウンロードできます。



## 中国のSNSでの事故報道を研究してます

大学院への進学を決めた理由は?

大学2年生の時、社会人の姉と相談して、中国の今の就職活動の競争の激しさ、そして自分の能力的な不足が分かりました。大学院は個人が主体として研究活動を行うので、そこで自らを磨くことができます。以前から日本で学びたいと思っていたので、大学2年から日本語の勉強も始めました。

大学院での研究テーマ、研究科の雰囲気

現在は、2015年天津滨海新区倉庫爆発事故のSNS報道を中心に、中国のSNSでの事故報道について研究しています。今の研究室には多くの優しい先輩がいて、研究にいろんなアドバイスがもらえます。研究の中には様々な難しいところもありますが、今後の自分、そして社会に役立てればと思います。

修了後に目指すもの。学部生へのメッセージ

将来はできれば日本で、例えば広告、メディア系などの会社に就職したい。面白くて、成長ができる仕事をしたいです。そして日本の仕事の仕方もしっかり経験したいです。就職活動を始めた皆さんは、研究と学問だけでなく、今後の仕事のための能力を身に付けるのも大事だと思います。両方のバランスを取れば、絶対に自分が望む未来を実現できるようになります。

## 法務研究科の経済的サポート

### 独自の奨学金制度が充実 法学部生は入学金、入学検定料も免除

法学部出身者は、日本大学大学院の入学金が免除となりますが、法学部在学学生は、法務研究科入学検定料も免除されます。

さらに奨学金制度も、日本大学による「古田奨学金」「ロバート・F・ケネディ奨学金」等に加え、法務研究科独自の奨学金を用意(右図)。給付金額も定員数も多い給付型奨学金で学生をサポートします。

### 日本大学大学院法務研究科奨学金(給付)

第1種	98万円(授業料相当額)	新入生で入学試験の成績が特に優秀で人物が優れている者(標準修業年限、定員15名)
第2種	50万円(授業料相当額の半額)	新入生で入学試験の成績が優秀で人物が優れている者(標準修業年限、定員15名)
第3種	98万円(授業料相当額)	在学生で前年度の学業成績が特に優秀で人物が優れている者(1年間、定員10名)
第4種	50万円(授業料相当額の半額)	在学生で前年度の学業成績が優秀で人物が優れている者(1年間、定員4名)
第5種	50万円	新入生の日本大学出身者で入学試験の成績が優秀で人物が優れている者(1年間、定員5名)

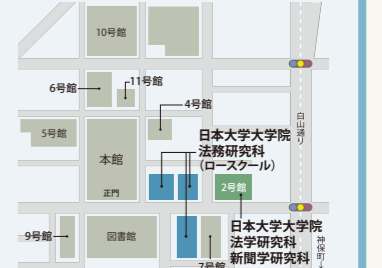
## 3つの大学院

法学部の神田三崎町キャンパス内に位置する3つの大学院研究科。法務研究科(ロースクール)が神田三崎町キャンパスに移転したことで、大学院と法学部との連携が一層強化されました。法学部図書館や学食も学部時代同様に利用できます。

### ●大学院進学相談会

以下の日程で進学相談会を行います(事前予約不要)。  
※時間、会場は大学院HPまたは各担当課に確認を。

法学研究科、 新聞学研究科	11月3日(祝) 第2回 大学院進学相談会 12月15日(土) 第3回 大学院進学相談会 1月26日(土) 第4回 大学院進学相談会 問 法学部教務課大学院入試係
法務研究科	10月13日(土) 第4回 法務研究科進学相談会 11月27日(火) 第5回 法務研究科進学相談会 問 法学部大学院事務課





公共政策学科  
**木川裕 准教授**  
担当授業  
経営情報システム論I・II  
社会情報システム論  
社会情報システム研究  
コンピュータ・リテラシーA・B  
行政実務演習  
公共政策基礎演習  
専門研究B

**専門分野・研究テーマ**〔経営情報学〕

企業経営における意思決定支援システムに関する研究  
AIやビッグデータ等ICTの進化により、経営は大きく変わろうとしています。そこで、経営における様々な問題解決に役立つ意思決定支援システムについて研究しています。

**授業でこれを伝えたい!**

社会環境の変化に伴い、ICTの役割はますます重要になってきています。経営情報システム論では、現在のICT環境を前提とした「情報システム」と人間が持つ「固有の情報処理能力」が有機的に結合することで、組織体の維持発展や革新がどのように生まれるのか、について学習していきます。授業では、ICTで何ができるか等、積極的な意見交換を求めるスタイルで授業を進めています。



新聞学科  
**三谷文栄 助教**  
担当授業  
メディア・コミュニケーションの科学A  
現代メディア社会論I  
メディア・テキストの基礎I・II  
ニュース英語I・II

**専門分野・研究テーマ**〔政治コミュニケーション〕

社会で生じる政治的な出来事がニュースとして報道される過程でどういった意味づけがなされるのかを分析しています。そうした分析を通じて、政治社会の価値観とはいかなるものなのかを考えます。

**授業でこれを伝えたい!**

授業ではマスコミュニケーションの効果や、日本のメディアの現状、時事問題などを扱っています。授業を通じて、政治的・社会的な出来事に対する関心、そしてジャーナリズムへの関心を高めてもらえたらと考えています。授業の冒頭では前回の授業の復習や、質問に答えています。私たちの社会にとって、ジャーナリズムが重要な役割を果たしていることを、授業を通じて学んでもらいたいです。



政治経済学科  
**松元雅和 准教授**  
担当授業  
政治哲学  
政治学  
西欧政治思想史など

**専門分野・研究テーマ**〔政治哲学〕

政治哲学とは政治学のなかで、規範論(べき論)を扱う分野です。自身の現在の研究テーマとしては、戦争と平和の正義論、人口の正義論などに関心をもって取り組んでいます。

**授業でこれを伝えたい!**

政治に関する話題は、とすれば時評的な議論になりがちですが、その底層に控えている原理的問題に気づき、それを学問や研究として深める大局的視座を養ってもらいたいと思います。そうして得られた知識は、長い目で見て色褪せず、様々な政治現象を理解するうえでの指針になってくれます。併せて、学生が自分自身の考えを適切に表現できるよう、討論やレポートを通じてその技能と方法を養います。



法律学科  
**加藤雅之 教授**  
担当授業  
民法I(民法総則)  
民法II(物権法)  
ゼミナール

**専門分野・研究テーマ**〔民法〕

民法のうち、とくに不法行為法・契約法に関する分野を研究しています。主にイタリア法を比較法研究の対象として、現代的な問題に対する民法理論のあり方について考察しています。

**授業でこれを伝えたい!**

「分からない」ことを恐れずに、自分なりに徹底的に考えることを大切にしてほしいと考えています。法律を学ぶ面白さは、何が「分からない」のかを知り、答えを探すところにあります。学生の皆さんには、一つでもいいので、面白いと思えるテーマを見つけて、学問の楽しさを味わって頂ければ幸いです。大学は教える場ではなく、ともに考える場であるべきだと思います。皆さんの思いや疑問を遠慮なくぶつけてください。



法律学科  
**小野寺千世 教授**  
担当授業  
商法I(会社法)  
商法IV(保険法)  
ゼミナール

**専門分野・研究テーマ**〔商法〕

商法、なかでも会社法および保険法の近時の裁判例に関する考察を行い、また、法曹、実務家の方々との研究会等において、近時の課題等に関する研究をしています。

**授業でこれを伝えたい!**

商法科目の講義では、基礎的知識を身につけることはもちろんですが、社会においてどのような意味を持っているのか等、知的好奇心をもって学んでほしいと考えています。ゼミナールでは、将来の希望にそって、必要と思われる専門知識を身につけられるよう、ともに学習し、また、大学生活をどのように過ごすことが将来につながるのかを、一緒に考えるように心がけています。



法律学科  
**大杉麻美 教授**  
担当授業  
民法I(民法総則)  
民法VI(親族法)  
民法VII(相続法)  
ゼミナール

**専門分野・研究テーマ**〔家族法・相続法〕

離婚に関する法的諸問題、資産承継をめぐる法的諸問題

「離婚」に伴い起こるであろう家族をめぐる諸問題について、歴史的経緯や比較法的見地も踏まえ研究しています。人はなぜ結婚をして家族を作り、離婚するに至るのか、答えの出ない問題に取り組んでいます。また、相続に関する法的諸問題についても研究をしています。

**授業でこれを伝えたい!**

家族問題のあれこれについてわかりやすく講義を致します。法律の勉強を通して「家族になること」「家族でいること」の意味について考えてみましょう。法律を身近に感じ、考えるきっかけを作りたいと思います。わからないことはぜひ積極的に質問をしてみましょう。社会問題について興味があれば意見を述べてみましょう。私からみなさんの意見を伺うこともあります。一緒に、考える時間を共有しましょう。



外国語科目 フランス語  
**石橋正孝 准教授**  
担当授業  
フランス語基礎表現  
フランス語基礎文法  
フランス語演習  
フランス語資格試験対策  
自主創造の基礎

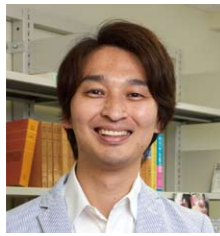
**専門分野・研究テーマ**

フランス・ルネサンスの文学

フランスでは、近代の出発点としてのルネサンスにおいて、近代小説・近代個人は同時発生的に形成されてきました。両者の関係と、それぞれの構成要素について研究しています。

**授業でこれを伝えたい!**

フランス語においては、音を重視して実践的なフランス語を習得してもらう心がけています。自主創造の授業でも、学生の皆さんの心に響く言葉を届けるように、本音で語りかけることを心がけています。着任して数カ月経ちましたが、心を開いてくれた学生達が研究室に色々な相談に来るようになってきました。それは、僕にとっても学生の皆さんを知り、理解する貴重な場になっています。



外国語科目 英語  
**佐藤健児 助教**  
担当授業  
英語A・B  
英語C・D  
TOEFLIIA・IIB  
英検/IELTS IA・IB

**専門分野・研究テーマ**〔英語学(現代英文法・語法)〕

現代英語の時制や相、法性といった分野について、記述的な観点から研究しています。現在は、個々の未来表現 (be going to/be (about) to など) が表わす意味を研究しています。

**授業でこれを伝えたい!**

皆さんの中には、「ことばの勉強なんてなんの意味があるのか」と思う人もいらっしゃるかもしれません。けれども、ことばを学ぶということは、そのことばを使用する人間について深く学ぶことでもあります。授業では、単なる資格試験のためのテクニックではなく、ことばの面白さや奥深さ、そして、人間のこころについて学んでほしいと思っています。



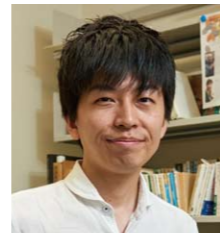
総合科目  
**田代崇 助教**  
担当授業  
自然地理学概論I・II  
環境論I・II

**専門分野・研究テーマ**〔自然地理学、第四紀学〕

東南アジアにおける完新世の古気候変動とこれに伴う環境変遷史を固定堆積物の微化石の分析により復元しています。また、人間による自然改変の影響を地形・植生から研究しています。

**授業でこれを伝えたい!**

講義では、リアクションペーパーを基に、学生と議論の出来る環境を提供するよう心がけています。経験できない時代における自然現象は、緻密な分析と少しの想像力によって復元されていきます。学生の皆さんには、変化の激しい世界に対し、大学で習得する多彩な視点をもって臨んで頂きたいと思います。



総合科目  
**香川七海 助教**  
担当授業  
教育学  
現代教職論  
道徳教育論  
教職実践演習

**専門分野・研究テーマ**

教育社会学、社会問題、社会運動、質的研究

社会のなかで、どのように「教育」や「保育」が扱われてきたのかという歴史を研究しています。何百年も前の本をめくったり、青少年にインタビュー調査しながら、研究を進めています。

**授業でこれを伝えたい!**

授業では、受講生の興味関心を惹くことのできるように、たくさんの図像や映像を使用するようにしています。前期の「教育学」の授業では、ヨーロッパ・アメリカの子ども観の変遷を検討し、童話や児童小説のストーリーの変化を追いました。映画『メリー・ポピンズ』(1964)の場面の分析なども行って、時代による「子育て」の違いや歴史的背景について考察しました。受講生が楽しめる授業空間をつくれるように心がけています。



法律学科  
**末澤国彦 助教**  
担当授業  
法学I  
日本法制史I  
日本法制史II

**専門分野・研究テーマ**

日本における近代的司法制度構築史の研究

明治維新を機に日本は、江戸時代までの東洋型司法制度をやめ、西洋型の近代的司法制度を受容することになりました。その過程でどのようなことが起きたのか、また裁判制度がどのように人々に定着していったのかなどを中心に研究しています。

**授業でこれを伝えたい!**

授業では、司法制度だけでなく、日本の主要な法がどのようにして制定されていったのかということにも触れていきます。そこでは単に法律の問題だけでなく、当時の政治状況・経済問題・社会状況・国際情勢・文化の問題なども併せて説明しています。そこで、学生の皆さんには法律だけでなく幅広い分野に関心を持つようにしてもらいたいと思います。特に東京の大学に通うからこそ経験できることがたくさんあります。授業内でも紹介できる情報やアドバイスやヒントの提供を積極的に行いたいと思います。



法律学科  
**吉田純平 准教授**  
担当授業  
民事訴訟法  
民事執行・保全法  
ゼミナール

**専門分野・研究テーマ**〔民事手続法〕

特に債権執行における諸問題を研究

民事執行の中でも特に債権執行を対象に、債権者、債務者、および第三債務者など関係人の利害調整を通じて、いかにして適正な執行が実施されるかを研究しています。

**授業でこれを伝えたい!**

民事手続法の勉強を通じて、社会において何らかの判断をする際には、どのような手続きを経る必要があるか、または、どのような手続きを作らなければならないのかを習得してほしいです。法律の知識以外では、他人に対して物事を丁寧に伝えることや、困難な問題に直面した時にそれを解決するための良い思考方法を身につけてもらいたいので、ゼミでは、このような視点を重視して授業を進行するように努めています。



法律学科  
**澤田康広 教授**  
担当授業  
刑事訴訟法I  
ゼミナール

**専門分野・研究テーマ**

刑事訴訟法の目的、取調べのあり方、自白法則

裁判員裁判の施行に伴い、刑事裁判実務が大幅に変わりましたが、刑罰法の目的が実現されているのか、取調べは適法に行われているか、などについて研究しています。

**授業でこれを伝えたい!**

私は、長年検察官として刑事実務に携わってまいりましたので、授業の中では検察官時代に経験した事件の話などもおりませながら、生きた刑事訴訟法を学んでもらいたいと思っています。また、現在、刑事司法は、制度改革の真っただ中にあります。刑事訴訟法等が改正され、様々な制度が新たに始まっています。刑事司法が抱えている問題点とともに制度改革についても丁寧に解説します。

# 法学部の就職力

## 就職指導課インフォメーション

3年生は本格的に就職活動がスタート!!  
来春3月まで早め早めの準備が重要です

### 積極的に利用しよう! 法学部の就活支援プログラム

\*10~12月のイベント日程はP12を参照。

#### #1 自己分析、エントリーシート作成

就活準備は自己分析から。自分の強みや考え方を整理することは、業界・企業選びやエントリーシート作成、面接試験に役立ちます。10月の「自己分析・エントリーシート作成ガイダンス」ほか、各種ガイダンスも実施します。

#### #2 業界・企業・職種の研究

各業界別に行う「業界・企業・職種研究セミナー」(10月)をはじめ、企業の選び方ガイダンスなどを多数開催。3月には全学部生対象の「合同企業研究会・就職セミナー」や大手・人気企業による個別の「企業研究セミナー」も。

#### #3 筆記、SPI対策、面接対策

多くの企業が採用選考に使用するSPI3や面接の対策も早めに。10・12月に「SPI3対策講座\*」、11~12月に「SPI3対策テスト\*」「SPI3 WEBテスト\*」、面接はガイダンスや模擬面接、グループディスカッション講座などを開催します。  
(※は有料で要申込み)

#### #4 内定者、OB・OGの就職相談会

10~11月には内定者(4年生)から内定獲得までのプロセスが聞ける大好評イベント「内定者相談会」を開催。2月の「法学部就活セミナー」は、民間企業、官公庁から法学部OB・OGが約100名来校し、ブース形式で相談を受けます。

**2** 020年3月卒(現3年生)の民間企業の就活スケジュールは、2019年3月卒と同様に、来春3月1日から企業の広報活動、6月1日から選考活動が開始されます(下図参照)。3月以降は、会社説明会への参加、エントリーシートの提出、筆記試験とフル回転で動くことになるので、それまでにどれだけ準備ができるかが重要になってきます。

まずは自己分析を行い、エントリーシートの書き方や自分が興味を持つ・目指す業界とその企業を研究。併せて筆記試験や面接試験の準備もしましょう。

就職指導課では、3月の就活解禁に向けた各種支援イベントを開催します。また課内の相談コーナーでは、業界・企業選び、エントリーシート添削など、専門のスタッフが親身にアドバイスします。

3年生				4年生								
2018年10月	11月	12月	2019年1月2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
自己分析、自己PRの準備、エントリーシート対策				エントリー								
業界・企業・職種研究、OB・OG訪問、冬期インターンシップ				会社説明会・会社訪問								
筆記試験対策、面接試験対策				エントリーシート(ES)提出								
				筆記試験・適性検査								
				面接試験								
				内定								

※日本経済団体連合会(経団連)公表による2020年4月入社予定者の例。(2021年卒については未発表)。また、経団連に加盟していない企業についてはこの限りではありません。

### 就活生の保護者の皆さまへ 今号のワンポイントアドバイス

近年の就職活動は3年生からスタートし、インターンシップ、エントリーシート、SPI3など、保護者の時代とは様変わりしています。これを踏まえた上で、保護者の皆さまも就活の情報や様々な経済ニュースを集めてみてください。まだまだ知らない会社があるはずですよ。

## 就職にも有利 学生研究室で資格取得を!

万全の体制でサポート  
6つの学生研究室

司法科研究室 税理士科研究室  
司法書士科研究室 行政科研究室  
弁理士科研究室 公認会計士科研究室

### 第4回 税理士科研究室 税金の専門家、税理士試験合格を目指す

税理士は税務代理、税務書類の作成、決算業務や経営関係の指導など会計の専門知識に伴う税法務を行います。税理士資格を持つ人は、企業内での税務専門家、税理士法人への就職、事務所の独立開業の道を進むことができます。

その税理士試験の合格と税理士としての成功を目指して、講義や学ぶ環境を提供しているのが税理士科研究室です。税理士試験は科目ごとに合格が決まる科目別合格制をとっており、無理せず1科目ずつ挑むことができます。

税理士科研究室には学部生、大学院生など幅広い人材が在籍し、同じ目的を持つ仲間と切磋琢磨して勉強に集中できます。試験に関する参考書、問題集なども自由に閲覧できます。

**POINT 1** 税理士試験は「科目別合格制」  
無理せず1科目ずつトライ!

税理士試験は科目ごとに合格が決まる科目別合格制で、必須科目を含め5科目に合格すれば税理士試験合格となります。合格した科目は一生有効なので、1科目ずつ挑戦できます。科目合格を履歴書に記載できるので就活にも有利です。

必須科目	簿記論、財務諸表論
選択必須科目	所得税法、法人税法(最低いずれか1科目)
選択科目	相続税法、国税徴収法、固定資産税、事業税または住民税、酒税法または消費税法

各研究室への入室は、春の説明会と秋の入替試験(または受験面談)で受け付けます。入室料は、年間3千円です。入室試験や答練などの成績優秀者には、研究室内に専用の固定席が1年間貸与され、集中して勉強することができます(貸与基準は研究室ごとに異なります)。

●学生研究室に関する問い合わせ  
司法科研究室事務室(5号館2階)  
司法科研究室を除く5研究室はエクステンションセンター(10号館2階)



## 知的好奇心をさらに高める ゼミナール突撃訪問

ここが役に立つ!

政治経済学科 川又 祐ゼミナール



### 財政問題を研究するゼミナール 経費支出の現場を歩く施設見学会も実施

川又ゼミナールは、財政問題を中心に勉強しています。財政学の講義では確かに経費論・歳出論を扱うのですが、実際に経費がどのように支出されているのかを実地で見る機会はありません。そこで川又ゼミでは、刑務所、自衛隊、日本銀行、造幣局などこれまで毎年施設見学会を実施しています。今回の国会議事堂見学では、財政民主主義の現場を目の当たりにすることができ、私自身としても感慨深いものがありました。普段のゼミでは個人発表が中心となりますが、法桜祭でフォーラム発表(グループ発表)を行います。教室内外でのゼミ活動を通じて、公務員や民間に多数卒業生を輩出しています。



### ゼミ生に聞きました!



自分の出身地の財政状況から、財政問題の解決策を学びたいと入りました。先生との距離が近い、居心地のいいゼミです。

ゼミ長 / 政治経済学科3年 伊藤憲佑さん



幅広い経済分野の中から自分自身で研究テーマを決めることができ、一から論文を作り上げていく研究過程が魅力です。

副ゼミ長 / 経営法学科3年 返田麻莉奈さん



政治経済学科  
川又 祐 教授

財政学、経済学、政治経済原書研究、自主創造の基礎、ゼミナールを担当。研究テーマは、ドイツ官房学、経済学史学会、日本財政学会所属。

## 楽しくてタメになる 法学部授業Close-up

なるほど納得!

比較ジャーナリズム史

新聞学科 小林聡明 准教授



新聞学科の必修科目。取材日のテーマは「ラジオを考えるー放送」の成立と戦争協力

### 現状を打破し、未来を切り拓く奥深い思考力と鋭敏な論理構成力の獲得を目指して

私たちが暮らす社会には、さまざまな問題が存在しています。それらは、大切なものであればあるほど、見えにくく、気がつきにくいものとなっています。どのようにすれば、見えにくくなっている問題を発見し、克服するための第一歩を踏み出せるのでしょうか。

本授業は、学生と教員がともに、発見・克服のための手がかりを探すことを目的としています。それは、ジャーナリズムという人間の社会的実践について、時間的な幅(=歴史)と空間的な広がり(=比較)のなかで考えるという知的営みとして位置付けられます。こうした知的営みを楽しみながら、学生のみならずには、現状を打開し、未来を切り拓くことのできる「知的体力」を養い、奥深い思考力と鋭敏な論理構成力を獲得してほしいと思います。そのための「お手伝い」をすることが、本授業のもっとも大きなねらいであり、

教員の役割と考えています。

### 学生に聞きました!

歴史とジャーナリズムに加え、「今」のニュース解説などたくさん情報を与えてくださいます。

新聞学科1年 渡邊心さん

先生から学生への質問は、決まった答えのない質問が多いので、考える力が身につきます。

新聞学科1年 前田晴海さん

各国(主に東アジアと欧米)のジャーナリズムを歴史的事実を交えて考えていく授業です。

新聞学科1年 福島未悠さん

韓国人留学生です。日韓関係や様々な分野に触れられ、今後この知識が役立つと確信します。

新聞学科2年 鄭憂助さん



新聞学科 小林聡明 准教授

比較ジャーナリズム史、メディア史、異文化メディア、グローバル・コミュニケーション、地域コミュニケーション、ゼミナールなどを担当。研究テーマは、東アジア国際政治史、メディア・ジャーナリズム史、朝鮮半島地域研究、他。